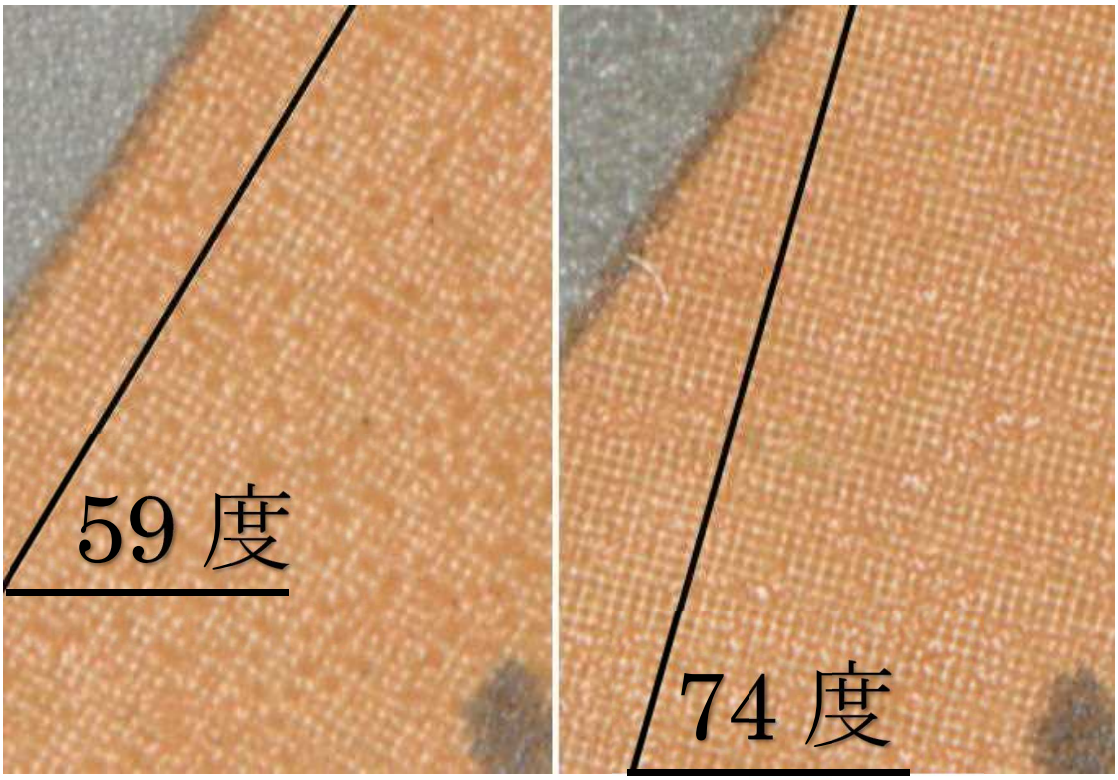
（解説・10 月例会でも紹介）

記念切手のグラビアスクリーン（３）

永吉 秀夫

前２回の連載は、拙著『郵趣モノグラフ 31』でも取り上げた切手でしたが、今回の趣味週間「写楽」は最近になって「発見」したスクリーンバラエティです。本当に新発見であるかどうかは確信が持てませんが、あまり知られていないバラエティであることは確かでしょう。右写真の赤枠部分を拡大すると、ほとんどの切手で橙色の網目を見ることができますが、その網目の方向に明らかな角度バラエティが存在します。

精密に測定すると、下図左側では 59 度、右側では 74 度となりました。その差が 15 度ともなると、ルーペで見ただけで容易に分類できるでしょう。この橙色のスクリーンは、ほとんどの切手で鮮明です。皆様のお手元の「写楽」も調べてみませんか？



気になるのは、やはり「どちらが少ないか」ですね。まだ 10 枚ほど調べただけなので確かなことは言えませんが、存在数にさほどの差はなさそうです。強いて言えば、74 度の方がやや少ないかもしれません。

この切手は 4 色刷りですが、他の 3 色については今のところバラエティは見つかっていません。灰茶色は 85 度、灰色は 52 度、黒は 43 度程度です。これらのうちバックの灰色については、鮮明に見える切手はかなり少ないようです。なお趣味週間切手については、1964 年「宿木」にも同様のバラエティが存在します。どのようなバラエティであるかは、皆様のお楽しみとしておきましょう。